PART3 練習問題（の・が）

問一 傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

① 草の花はなでしこ。唐(から)のはさらなり、大和のはいとめでたし。
② いかなる人の御馬ぞ。
③ 瀬をはやみ岩にせかるる滝川のわれても末に逢はむとぞ思ふ
④ 人の描かする仏もおはしけり。
⑤ 中頃、年高き尼の、さすがに人に知られて乞食(こつじき)しありくあり。

ア　主格　　イ　連体格　　ウ　同格　　エ　準体格　　オ　連用格

①＝　②＝　③＝　④＝　⑤＝

問二　「十六七ばかりなる小童(こわらは)のいとさかしきが侍りけり。」の傍線部と文法的に同じ用法のものを、次の中から選べ。

ア　男の着たりける狩衣(かりぎぬ)の裾(すそ)を切りて、歌を書きてやる。
イ　女の*え得まじかりけるを、年をへて、夜這(よば)ひわたりける…
ウ　日暮るるほど、例の集まりぬ。
エ　業平の歌は、その心あまりて詞たらず。
オ　万葉集に入らぬ歌、みづからのをも奉らしめ給ひて、

注　え〜まじかり＝〜できない

問三　傍線部A〜Eの「の」の意味・用法として、最も適切なものを次の中から一つ選べ。

官めきたる女房$_{A}$のおとなしきが所作するあり。
よに御輿(みこし)$_{B}$のさま気高くて、宝前へ入らせおはします。
太政入道殿$_{C}$の左衛門督など申ししころ$_{D}$の面影も通ひ給ふ心地して…
「奈良$_{E}$の方よりにてさぶらふ」と申す。

ア	A　同格	B　連体修飾格	C　連体修飾格	D　主格	E　連体修飾格
イ	A　同格	B　連体修飾格	C　主格	D　連体修飾格	E　連体修飾格
ウ	A　連体修飾格	B　連体修飾格	C　主格	D　同格	E　主格
エ	A　同格	B　連体修飾格	C　連体修飾格	D　連体修飾格	E　主格
オ	A　連体修飾格	B　同格	C　主格	D　連体修飾格	E　連体修飾格

問四　傍線部と同じ用法として最も適当なものを、次の中から選べ。

かたくななる人の、その道知らぬは、そぞろに神のごとくに言へども、道知れる人は更に信もおこさず。

ア　おほくの工の心をつくしてみがきたて…

イ　老いたる尼の、行きつれたりけるが、道すがら「くさめくさめ」と言ひもてゆきければ…

ウ　此の国の博士どものかける物も、いにしへのあはれなる事おほかり。

エ　北の方の日ごろはそら知らずして、この夜中ばかり、「〜」とむつかり給ひつれば、…

問五　傍線部ａ〜ｃの「の」の用法として最も適当なものを、それぞれ次の中から一つずつ選べ。

こ[a]の歌また、万葉集の第十二巻の歌なり。

「をかしくいはむとて、万葉集の歌[b]のさもありぬべきをいはせたるにもやあらむ」と…

大納言なりける人[c]の帝に*奉らむとて*かしづきける女を、…

注　奉らむ…ここでは「差し上げよう」の意味。

かしづく…大切に育てる。

ア　主格　　イ　連体格　　ウ　同格　　エ　準体格　　オ　連用格

ａ＝　　ｂ＝　　ｃ＝

問六　傍線部「が」と同じ用法の「が」を含む文を、次の中から選べ。

*僧坊ども多し。かの室(しつ)へ入(い)りて、「ここにて法師が様(やう)見給へ」と云ふ。

注　僧坊…寺院に付属して建てられている、僧侶が住む建物。

ア　親、はらからの中にても、思はるる思はれぬがあるぞいとわびしきや。
イ　この歌はある人のいはく、大友の黒主がなり。
ウ　めでたくは書きて候ふが、難少々候ふ。
エ　わが庵(いほ)は都のたつみしかぞ住む世を宇治山と人はいふなり
オ　いとやむごとなき際(きは)にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。

第20講　PART3　確認問題

① 「よろづの虫の、恐ろしげなるを取り集めて、…」の傍線部の格助詞「の」と同じ用法の「の」を、次の中から選べ。

ア　この姫君ののたまふこと、…
イ　男の童の、ものおぢせず、いふかひなきを召し寄せて、…
ウ　箱の虫どもを取らせ、…
エ　よろづのもとどもをたづねて、…

② 傍線部の「の」の用法として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

a　怪(け)と人の申すことどもの、…
b　前(さき)の一条院の御即位の日、…
c　髪つきたるものの頭(かしら)の、血うちつきたるを見つけたりける、あさましく、…
d　かばかりのことを隠すべきかとて、…

ア　a主格―b連体格―c同格―d連体格
イ　a主格―b連用格―c準体格―d準体格
ウ　a同格―b連体格―c同格―d連体格
エ　a同格―b準体格―c同格―d連体格
オ　a連体格―b連体格―c準体格―d連用格

③ 傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

世をすてたる人のよろづに*するすみなるが、*ほだし多かる人の望みふかきを見て、むげに*思ひくたすは*ひがことなり。

注　するすみ…無一文の身。
　　ほだし多かる人…ここでは「家族が多い人」の意味。
　　思ひくたす…軽蔑する。
　　ひがこと…間違い。

ア　主格　　イ　同格　　ウ　連体修飾格　　エ　体言の代用

④ 傍線部の用法として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

a　青き織物の衣を着て、錦を頭にもかづき、足にもはいたる僧の別当とおぼしきが寄り来て、…

b　女はこの男をと思ひつつ、親のあはすれども聞かでなむありける。

ア　a主格―b同格　　イ　a主格―b連体修飾格　　ウ　a同格―b主格　　エ　a同格―b準体格

⑤ 格助詞「が」について説明した文の空欄ａ・ｂにあてはまるものの組み合わせを、次の中から選べ。

いとやむごとなききはにはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。

「が」の上にある「あらぬ」と、下にある「たまふ」の直後に同じ［ａ］を補うことができることから、「が」は［ｂ］の用法であると考えられる。

ア　主格―連用修飾格　　イ　主格―同格　　ウ　体言―連体修飾格　　エ　体言―同格

オ　準体格―同格

〈Memo〉

第20講　PART3　解答

問一　①エ　②イ　③オ　④ア　⑤ウ
問二　イ
問三　イ
問四　イ
問五　aイ　bウ　cア
問六　エ

第20講　PART3　確認問題　解答

〈解説〉

①　設問の傍線部「の」のすぐ下の「恐ろしげなる」が形容動詞の連体形である。そこに「の」の上の体言＝「虫」を入れて訳してみると、「たくさんの虫で、気味悪いような虫を取り集めて、…」とおかしくないので同格（もしくは「の」から連体形までを省いて、「たくさんの虫を取り集めて」と確認しても良い）。選択肢アは「が」と訳せるので主格。イは「の」の下に、「いふかひなき」と連体形があるので、そこに「の」の上の体言を入れて訳してみると、「男の童（＝男の子の召し使いを指すことが多い）で、物怖じをせず、身分が低い男の童を召し寄せて…」とおかしくないので、これが正解。ウ、エは連体修飾格「の」。

②　a「体言（＝人）」が「用言（＝申す）」にかかっていくので、この「の」は主格。b「体言（＝即位）」が「体言（＝日）」にかかっていくので、この「の」は連体格。c「の」の下に、「たる」と連体形があるので、そこに「の」の上の体言＝「頭(かしら)」を入れて訳してみると、「髪がついているものの頭で、血がついている頭を見つけた、…」とおかしくないので、同格。d「かばかり」は副詞で、「これほど・これくらい」という意味。「かばかり」は体言ではないが、「これくらいのこと」と「体言（＝こと）」にかかっていき、「の」のままでおかしくないので連体修飾格。よって、正解はア。

③　「の」の下に、「なる」と連体形があるので、そこに「の」の上の体言＝「人」を入れて訳してみると、「出家した人で無一文の身である人が、家族が多い人が望みが深いことを見て、ひどく軽蔑するのは間違いである。」とおかしくないので、同格。よって、正解はイ。

④　a「の」の下に、「おぼしき」と連体形があるので、そこに「の」の上の体言＝「僧」を入れて訳してみると、「（錦を）

足にもはいている僧で、別当〔＝僧官の一つ〕と思われる僧が寄って来て、…」とおかしくないので、同格。b「体言〔＝親〕」が「用言〔＝あはすれ（＝結婚させようとする）〕」にかかっていくので、この「の」は主格。よって、正解はウ。

⑤ ここでは「あらぬ」と「たまふ」の下に「方」などの体言を補うことができる。よって、エが正解。

〔解答〕

① イ　② ア　③ イ　④ ウ　⑤ エ